

(20) わけぎ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 苗立枯病 <i>Rhizoctonia solani</i>	1. 床土は排水のよい無病のものを使う。 2. 苗床の温度変化に注意し、急激な温度変化を避ける。 3. 換気を行い、床土を乾かす。 <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. 消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	—	ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤
		出 芽 揃 い 後	M5	ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0
2 白絹病 <i>Sclerotium rolfsii</i>	1. 無病地を選ぶ。 2. 苗床では除草、間引きなどの作業をていねいに行い、苗に傷を付けないようにする。 <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. 消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	—	ク ロ ー ル ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤 キ ル パ ー
			—	
3 灰色かび病 <i>Botrytis cinerea</i>	1. 過湿にならないように換気を良好にする。 2. 病葉は除去して埋める。” <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. ストロビーは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。	発 病 初 期	11	ス ト ロ ビ ー フ ロ ア ブ ル
4 軟腐病 <i>Pectobacterium carotovorum</i> <i>Dickeya</i> sp.	1. 排水をよくして過湿を避ける。 2. 地下水位の高い圃場では高うね栽培を行う。 3. 窒素過多にしない。 4. 発病株は圃場外に持ち出し、処分する。 <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. ヨネポンは夏期高温時の散布を避ける。	発 病 初 期	M1 P2	ヨ ネ ポ ン 水 和 剤 オ リ ゼ メ ー ト 粒 剤
5 ベと病 <i>Peronospora destructor</i>	1. 越年罹病株を3月中に抜き取る。 2. 排水を良好にする。	苗 床 及 び 3 月 下 旬	11 M1 M5 P7	ア ミ ス タ ー 2 0 フ ロ ア ブ ル ヨ ネ ポ ン 水 和 剤 ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0 ア リ エ ッ テ イ 水 和 剤
6 疫病 <i>Phytophthora nicotianae</i>	1. 排水をよくし、過湿を避ける。 2. 地下水位の高い圃場では高うね栽培を行う。 3. 窒素過多にしない。	発 病 初 期	P7	ア リ エ ッ テ イ 水 和 剤
7 さび病 <i>Puccinia allii</i>	1. 草勢を良好に保ち、肥料不足や窒素過多を避ける。	発 病 初 期	3 11 M2	ラ リ ー 水 和 剤 ア ミ ス タ ー 2 0 フ ロ ア ブ ル イ オ ウ フ ロ ア ブ ル
8 黒斑病 <i>Alternaria porri</i>	1. 梅雨期と秋期、特に生育後期の肥料切れのときに発病が多いので、適切な施肥をする。 <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. ヨネポンは夏期高温時の散布を避ける。	発 病 初 期	2 11 M1 M5	ロ プ ラ ー ル 水 和 剤 ア ミ ス タ ー 2 0 フ ロ ア ブ ル ヨ ネ ポ ン 水 和 剤 ダ コ ニ ー ル 1 0 0 0
9 ボトリチス葉枯症	1. 肥培管理を適正にして草勢を保つ。 2. 定植時に苗に傷みが生じないように注意する。 3. 施設栽培では保温や換気に注意し、多湿を避ける。 <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. ロブラール水和剤は小菌核腐敗病にも登録がある。	発 病 初 期	2	ロ プ ラ ー ル 水 和 剤
10 ネキリムシ類	1. 植付け予定圃場では除草に努める。 2. 育苗床は、雑草の繁茂していないところに設ける。	播 種 時 又 は 植 付 時	1B	カ ル ホ ス 微 粒 剤 F
		生 育 初 期	3A	ガ ー ド ベ イ ト A

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

わけぎ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
11 シロイチモジヨトウ	1. 飛び込み軽減のため、防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。  〈薬剤使用の特記事項〉 1. 本虫対象に防除を実施しているところではハスモンヨトウの発生が少ない。	若 齢 幼 虫 期	5 6 15 15 3A 11A 11A	スピノエース顆粒水和剤 アフターム乳剤 マツチ乳剤 アタブロン乳剤 アグロスリン乳剤 ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤
12 ネギハモグリバエ	1. 飛び込み軽減のため、防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。	播種時または 植付時	4A	モスピラン粒剤
		植付時	4A	アクタラ粒剤 5
		定植時	4A	ベストガード粒剤
		発生初期	3A 4A 4A	アグロスリン乳剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤
13 ネギアザミウマ	1. 飛び込み軽減のため、防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 2. 畦畔雑草を処分する。	播種時または 植付時	4A	モスピラン粒剤
		植付時	4A	アクタラ粒剤 5
		定植時	4A	アドマイヤー 1 粒剤
		発生初期	15 3A 4A 4A 4A	アタブロン乳剤 アグロスリン乳剤 アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤
14 タネバエ	1. 植え傷みを少なくする。 2. 被害株を抜き取る。 3. 成虫は有機物の腐敗臭に誘引されるので注意する。	播種時または 植付時	1B	ダイアジノン粒剤 3
15 アブラムシ類	1. 飛び込み軽減のため、防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 2. 畦畔雑草を処分する。	発生初期	3A	アグロスリン乳剤
16 ネギコガ	1. ネギ類を周年出荷栽培を行っている地域では、各作型を計画的に栽培し、本種の生活環を断つ。	発生初期	3A	アグロスリン乳剤

(21) あさつき

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 白絹病 <i>Sclerotium rolfsii</i>	1. 無病地を選ぶ。 2. 苗床では除草、間引きなどの作業をていねいに行い、苗に傷を付けないようにする。  〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	— — —	クロールピクリン ドロクロール クロルピクリン錠剤
2 萎凋病	1. 無病地を選ぶ。 2. 苗床では除草、間引きなどの作業を丁寧に に行い、苗に傷を付けないようにする。  〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除 の項参照。	土 壌 消 毒	—	クロールピクリン
3 苗立枯病	1. 床土は排水のよい無病のものを使う。 2. 苗床の温度変化に注意し、急激な温度変 化を避ける。 3. 換気を行い、床土を乾かす。  〈薬剤使用の特記事項〉 1. 消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除 の項参照。	土 壌 消 毒	—	クロールピクリン

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

## あさつき

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
4 軟腐病	1. 排水をよくして過湿を避ける。 2. 地下水位の高い圃場では高うね栽培を行う。 3. 窒素過多にしない。 4. 発病株は圃場外に持ち出し、処分する。	発病初期	M1 P2	ヨネポン水和剤 オリゼメート粒剤
5 ベと病	1. 越年罹病株を3月中に抜き取る。 2. 排水を良好にする。	苗床及び 3月下旬	11 M1	アミスター20フロアブル ヨネポン水和剤
6 黒斑病	1. 梅雨期と秋期、特に生育後期の肥料切れのときに発病が多いので、適切な施肥をする。	発病初期	2 3 M1	ロブラール水和剤 オンリーワンフロアブル ヨネポン水和剤
7 さび病	1. 草勢を良好に保ち、肥料不足や窒素過多を避ける。	発病初期	3 3 11 M1 M2	ラリール水和剤 オンリーワンフロアブル アミスター20フロアブル ヨネポン水和剤 イオウフロアブル
8 ボトリチス葉枯症	1. 肥培管理を適正にして草勢を保つ。 2. 定植時に苗に傷みが生じないように、注意する。 3. 施設栽培では保温や換気に注意し、多湿を避ける。 <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. ロブラール水和剤は小菌核腐敗病にも登録がある。	発病初期	2	ロブラール水和剤
9 ネキリムシ類	1. 植付け予定圃場では除草に努める。 2. 育苗床は、雑草の繁茂していないところに設ける。	播種時または 植付時	1B 1B	カルホス微粒剤 F カルホス粉剤
		生育初期	3A	ガードベイト A
10 シロイチモジヨトウ	1. 飛び込み軽減のため、防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 <b>〈薬剤使用の特記事項〉</b> 1. 本虫対象に防除を実施しているところではハスモンヨトウの発生が少ない。	若齢幼虫期	5 6 11A 11A 15	スピノエース顆粒水和剤 アフアーム乳剤 ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 アタブロン乳剤
11 ネギハモグリバエ	1. 飛び込み軽減のため、防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。	播種時	4A	モスピラン粒剤
		植付時	4A 4A	モスピラン粒剤 アクタラ粒剤 5
		定植時	4A	ベストガード粒剤
		発生初期	4A	ダントツ水溶剤
12 ネギアザミウマ	1. 飛び込み軽減のため、防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 2. 畦畔雑草を処分する。	播種時	4A	モスピラン粒剤
		植付時	4A 4A	モスピラン粒剤 アクタラ粒剤 5
		定植時	4A	アドマイヤー 1 粒剤
		発生初期	4A 4A 4A 15	アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アタブロン乳剤
13 タネバエ	1. 植え傷みを少なくする。 2. 被害株を抜き取る。 3. 成虫は有機物の腐敗臭に誘引されるので注意する。	播種時または 植付時	1B	ダイアジノン粒剤 3

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する